

THE STUDIO—LONDON

三四葉の原色版と澤山の小畫あり一般美術に涉りて趣味廣く比較的廉價なり。

L'ART D'DECORATIF—PARIS

佛文粧飾美術を主とする大なる雜誌

GAZETTE

佛文にて着色畫一枚あり面白そうな雜誌

THE MAGAZINE OF ART—LONDON

立派な挿繪多く高尚なり

BRUSH AND PENCIL—CHICAGO

記事も豊富にしてアメリカ出版の雜誌としては上等の部なり、

THE ARTIST—LONDON

二三の彩色畫あり、よき雜誌なれどスタヂオよりは劣るやうなり。

COCORIC—PARIS

頗るハイカラの突飛な繪畫や圖案多し、但廢刊したとの噂あり

THE BROCHURE—BOSTON

建築及彫刻の記事多し

REVUE ILLUSTRÉE—PARIS

小畫澤山あり、批評専門の雜誌にして讀めたら有益ならん

其他露國、西班牙、伊太利等幾多の美術雜誌があるが、よくもわからず外見丈けてはこれぞといふ程のものは見當らぬ(三十

六年三月五日北米バフワローより)

△ △ △

子爵秋元興朝氏曰く、日本の名畫と西洋の名畫とを同じ處に對比して、自分を欺くもなく虚心平氣に其時の感じを表白して見たなら其優劣は直ぐに決せられる、日本畫固有の特色を維持してゆかうとすれば不條理な繪を甘じなければならぬ、處がそれは時代が許さぬ、さればとて折衷は思ふ程の成功を期し難い、されば何も迷ふことはいらぬ、一躍して洋畫に入るの外はないと思ふ、洋畫に據つて入神の技に達する、日本將來繪畫の發展の道は此外に出てぬと私は信じてゐる云々(太陽)

△ △ △

雲の組織を正確に驗するには、雲そのものを直接に眺めずして黒き鏡に映りたるその像を見るとよい、此法を用ふるときは、太陽の方位にある薄き雲も充分に視察が出来るし、太陽の像すら不愉快なしに眺むることが出来ると氣象集志にあり、吾々が雲を研究する上にも此方法は便利なるべく、鏡は畫學用の調子鏡を其儘用ふることを得べし。

~~~~~

○人と異つた事をやらうといふには、元來規則で束縛したり、自分の腦力を使ふ方法を教へずに、他人の手腕、他人の頭腦から出た製作を、無暗と寫させたり、其人の性質、嗜好、目的に頓着なく、誰も彼も同じ機械で製造しやうといふやうな古流の畫學校に近寄らぬやうにせぬはならぬ。(名家訓言)